

第6回 武庫川女子大学

# 研究成果の社会還元促進に 関する発表会

2022/ 2/16(水)

15:00~17:30

会場(附属図書館6階C-604)・Zoom併用

武庫川女子大学における多様な分野の研究成果をお聞きいただける機会を  
設けました。各発表ごとに質疑応答時間も設定しております。  
お気軽にご参加ください。

## 【プログラム】

15:00~15:05

開会・開会挨拶

15:05~

発表(司会: 共通教育部 講師 長谷川 裕紀)

※発表概要・発表予定時間は裏面参照

	発表者	タイトル —サブタイトル—
1	日本語日本文学科 講師 工藤 彰	文学と地域を契機とした映像(フィクション)の制作 —作品の再構築と価値の再発見
2	日本語日本文学科 准教授 設楽 馨	子ども食堂における漢字・食育融合教材の開発と実践 小学生と大学生の交流機会の報告及び、食育漢字ゲームと食育調査の紹介
3	英語文化学科 教授 辻 和成	グローバル展開を進める企業の国際化支援のための調査研究 —職場の英語化診断と社員の実践的英語力の育成を目指して—
4	経営学科 助教 谷口 浩二	産学連携によるサステナビリティ人材の育成 —武庫川女子大学経営学部「産学教育連携論」を事例に—
5	経営学科 助教 谷口 浩二	地方創生人材育成のための産官学の取り組み —経営学部「実践学習」を事例に—
6	経営学科 助教 藤井 善仁	農村マネジメントにおける地域の実態と課題
7	生活美学研究所 所長 森田 雅子	野球聖地の生活質感とこれからの展望 (2) —住環境アンケートの概要(2020年1月~12月甲子園番町街全世帯配布・回収分)—
8	教育研究社会連携推進室 特任教授 大坪 明	丹波市でのハッピーパス応援ギフト事業の評価等に係る調査 -半年間実施での中間報告 —木製玩具等の贈呈を受けた人のアンケート回答の分析を通じて—

主催 武庫川女子大学  
教育研究社会連携推進室  
住所 兵庫県西宮市池開町6-46

Tel : 0798-45-9854 (直通)  
E-mail : shakai@mukogawa-u.ac.jp

生活	産業	文化・芸術	発表者・発表時間	概要
		○	[15:05 ▶ 15:20] 日本語日本文学科 講師 工藤 彰	工藤ゼミでは近代文学や昔話を現代的な映像に作り変える芸術実践を行っている。今年度は甲子園会館や丹波市ともコラボし、舞台を学外にも広げた。本発表ではこれらの事例を紹介しながら、さらに企業や地域と連携するための方策を検討したい。
○			[15:20 ▶ 15:35] 日本語日本文学科 准教授 設楽 馨	子ども食堂を交流拠点とし、小学生と大学生の食育と漢字教育に4年計画で取り組む。2021年度は、QOLを高める食育・漢字教育の成果を2点、報告する。 1) 小学生と大学生の食育調査 2) 漢字・食育融合教材（試作版）
		○	[15:35 ▶ 15:50] 英語文化学科 教授 辻 和成	企業活動のボーダレス化が進む中、企業には中長期的な視点での組織的英語対応の整備が求められる。本研究では企業の英語使用と英語教育の調査を進めてきており、今回は関西圏の地元ものづくり企業を中心に、独自の英語教育モデル（教材と学習方法）を共同開発することにより各企業の国際化対応の支援を目指す。
		○	[15:50 ▶ 16:05] 経営学科 助教 谷口 浩二	本発表は、サステナビリティ人材の育成を目的として、国連ユースプログラム＋大企業7社のサステナビリティ推進部による協力により実施した経営学部選択科目「産学教育連携論」の成果を分析し、受講経営学部学生80名の意識と行動の変化に関する考察を行う。
		○	[16:15 ▶ 16:30] 経営学科 助教 谷口 浩二	本発表は、①地域の魅力を伝え、活用できる人材、②新しい価値を創造する人材の育成を目的とし実施した経営学部実践学習「武庫女×HISツアー造成プロジェクト」「武庫女×パソナ地方創生人材育成プログラム」について報告する。
○			[16:30 ▶ 16:45] 経営学科 助教 藤井 善仁	本研究は、農村マネジメントとしての農村振興に関し、地域活性化、女性活躍推進、地域自治組織の3つの観点より農村の現状と課題を分析するものである。農村社会を支配する暗黙のルールを調査し、今後のあるべき「地域」を考察した。
○			[16:45 ▶ 17:00] 生活美学研究所 所長 森田 雅子	甲子園球場と旧甲子園ホテル（武庫川女子大学上甲子園キャンパス）を結ぶ甲子園筋に連なる甲子園番町街の住環境と生活質感を地域指定配達郵便・受取人後納郵便を使い調査した。その概要や、集計結果の報告書について解説する。
○			[17:00 ▶ 17:15] 教育研究社会連携推進室 特任教授 大坪 明	丹波市は今年度から開始した子育て応援施策で、新生児が居る家庭に特産品や木製玩具を進呈。木製玩具等を受け取った家庭のアンケート回答から、ギフトへの様な謝意と、かなりの割合で木製品を利用したい意向や木製品製造による街の活性化への期待が判った。しかし、木製品の普及には価格の廉価化の方策が必要なことも見えた。

10分休憩